

# 認識の甘さ

## 建設業 (24歳)

来るべきして此処へ来た。  
その年の7月、当時の私は、  
18歳の時に一目惚れをした  
女性と久しぶりに会う約束  
をしていました。

午後6時過ぎに会い、午後  
9時まで楽しい時間を過ご  
しました。彼女を家に送り、  
自宅に帰る途中に「このまま  
家に帰っても暇だから」とい  
う考えから友達に電話し、飲  
食に誘いました。

待ち合わせの駅まで車で  
向かい、友達と合流し、居酒  
屋に入っていききました。席に  
座り、少しぐらい良いだろう  
と思い、生ビールを飲みなが  
ら語り合っていました。

時間が経ち、アルコールが  
入っていたせいも、さつきま  
で一緒にいた女性に会いた  
くなり、「会いたい」とメール  
し、数分後にメールを受信し  
着信音が鳴りました。メール  
を開くと、「お酒を飲んでい

るのでしよう？だめだよ」と

返信がありました。私は彼女  
に会いたいという欲に負け  
てしまい「お酒なんか飲んで  
ないよ」と嘘の返信をしてし  
ました。数分後、またメ  
ールを知らせる着信音があ  
り、開いてみると「それなら  
いいよ」と書かれていました。  
「じゃあ、零時ぐらいに行く  
ね」と返信し、午後11時45分  
頃に会計を済ませ、店を出ま  
した。

友達に別れを告げ、ビール  
中ジョッキを5杯程飲ん  
でいるにもかかわらず、「自  
分は事故なんか起こさない」  
という甘い考えでハンドル  
を握ってしまいました。シー  
トベルトをし、好きな人にま  
た会える喜びを感じながら  
車を発進させました。

「会ったら何話そうかな？」  
そんな事を考えながら運転  
し、2〜3分が過ぎようとし

た時、目の前に四角い物体が  
見え、「ガンッ！」と音がして、  
気付いた時にはもう遅くて  
ブレーキすら踏めませんでした。  
した。

私は「今のはなんだ？」と  
思い、ルームミラーで確認す  
ると、さつき見た四角い物体  
がありました。私はどこかの  
運送屋が落とした荷物だと  
思い、その場で止まらず、次  
の信号で止まり、車から降り  
フロントを確認したところ、  
ナンバープレートが曲がつ  
ていただけで他に変わりは  
ありませんでした。

「なんだこのくらいか」と  
心の中で呟き待ち合わせの  
場所へ行きました。「着いた  
よ。」と電話を掛け、車の外へ  
出て車の底を確認してみる  
と、ラジエーターから液体が  
漏れていて、アンダーカバー  
が破損していました。彼女が  
家から出てきて、「来る途中  
に何か踏んじやった。」と話  
し、そこから他愛ない話を1  
時間ぐらいして、家に帰りま  
した。

午前8時に目覚め、家の隣

にある自動車の修理店へ行  
き、修理代がどのくらいかか  
るのかを見積りして貰う為、  
鍵を渡した後、家に帰りまし  
た。

姉に車を借りてコンビニ  
に行く途中、自動車修理店の  
前を通った際に自動車修理  
店にYシャツ姿の人が5〜  
6人いて、「ん？なにかあつ  
たのか？」と心の中で思い、  
買い物を済ませた後に自動  
車修理店へ途中、Yシャツ姿  
の人達がこちらに向かつて  
来て、「警察ですけど。」と声  
を掛けられました。

その時、私は「もしかし  
て・・・」と思いました。そ  
の後、任意同行され、数時間  
が経った頃、「逮捕状が出た  
から逮捕する。」と逮捕状を  
見せられました。そこには  
「自動車運転過失致死」と書  
かれていました。過失致  
死・・・私は人を轢いて殺し  
てしまったのだとその時実  
感しました。被害者の方は酔  
って道路に寝ていたところ  
を私が轢いてしまったと聞  
きました。

留置場に入り、やがて拘置  
所へと移送され、毎日被害者  
の方の冥福を祈る為、写経を  
書かせて頂きました。判決の  
日、「主文、被告人を懲役3年  
に処する。」との判決を受け  
ました。

私は現在、市原刑務所で反  
省の日々を送っています。受  
刑生活の中で命の大切さや  
ルールの大切さを改めて感  
じています。私が今までどれ  
だけ軽率な行動をしていた  
のか、ここで初めて気付かさ  
れました。私のように欲に負  
けてしまう前に、大切な家族  
や恋人の悲しい顔を思い浮  
かべて下さい。

「贖いの日々」  
第49集(平成26年版)より抜  
粋

転載・二次使用を禁止します。